

若者向け住宅はこれで良いのか？



竹口大紀 議員

町長 ▶ 不評ではないと思っている



まだ空室がある若者向け住宅

問

①若者向け住宅は、5月末で定員の半分の4世帯しか入居がない。何が原因だと考えているか。

【町長】通勤に時間がかかり、敬遠されていると推測。
②満室にするために、何に力を入れるつもりか。
【町長】宣伝し、I・Uターイン向けのPRもする。

③今後、町営住宅は、公設民営などの新しい方法を検討しないのか。
【町長】指定管理よりも町営で進めていく。

④入居には町内の別世帯で2名の保証人が必要という条件だが、本当に町外や県外からのI・Uターインを考えているのか。

【池本建設課長】I・Uターイン者は、県内か町内の人だと思ふ。町内で保証人が頼める想定。

⑤若者限定ではなく、定年退職した人の定住促進にも活用できないか。
【町長】若者の定住が大きなテーマ。方針変更はない。

問

①議会の会議録を確認すると、前教育長が平成18年の12月議会で「特別天然記念物のオオサンショウウオは、可能ならば施設を設置」と答弁をしているが、現状と今後は。
【伊澤教育委員長】経過で、施設は実現困難となったが、現地で観察する自然観察会に取り組んできた。
今後は、生態の紹介や観察の機会を作り、郷土の財産としたい。

政委員会。
教育長の交代で方針が変わることはない。

③特別天然記念物は、観光や教育でオリジナリティを出せる存在であるが、どう考えるか。

【伊澤教育委員長】オオサンショウウオは自然環境の豊かさを示すシンボル。子どもをはじめ、町民に広く認識してもらえるよう努力したい。

②町長や教育長の交代で、職員が進めてよいか迷う事業は他にないのか。

【伊澤教育委員長】教育委員会は首長から独立した行

④同じ観光資源で他町に遅れをとるのは、致命的じゃないか。

【町長】大きな観察施設を作ることは考えていない。

教育長の交代で止まっている事業は？

教育委員長 ▶ 交代で方針は変わらない



町の特徴を生かした教育を

子育て支援を積極的にすべきでは？

町長 ▶ 消極的ではない



ヒブワクチンを接種する幼児

問

①髄膜炎予防の小児用ヒブワクチンは、1回あたり3000円が助成されることになった。この助成の町長の理念は。

【町長】子育て支援の一環。元気で安心なまちづくりが理念。

②髄膜炎は60%がヒブ、30%は肺炎球菌が原因。なぜ、肺炎球菌ワクチンを助成の対象に含めなかったのか。

【町長】全国で2市町しか助成していないから。国や県の動きなどを見て判断したい。

③なぜ、全国に先がけてその2市町が助成を決めたと思うか。
【町長】その自治体が判断したものだ。

④その理由をどう推測するかという質問だが。

【町長】推測できない。
⑤おそらく子育て支援を充実させたい市と町。農産品だけが大山ブランドではなく、子育て支援の充実も自治体のブランド。子育てしやすい町を目指す考えは。

【町長】子育て支援は、すでに力を入れている。

⑥子どもに選択肢がないからこそ、自治体で助成する必要があると思うか。

【町長】慎重に検討したい。

⑦県の医療費助成が始まれば、毎年300万円程度の財源ができ、助成できる。
【町長】提案は、今後の検討材料や参考意見にしたいと思う。